

学年	ページ	開講科目
1年	44	臨床実習Ⅰ（見学実習）
2年	80	臨床実習Ⅱ（評価実習）
	92	実務経験を有する教員の科目一覧

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLT-01				
	●	●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅰ（見学実習）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 鈴木 将太 木村有希 江畑 綾		実習先の評価： 知識・人物・適性	72 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	学内の評価： 準備・報告書等	28 %
				授業形態	実習	授業時間数	45 時間			
						授業回数	- 回			
授業の概要	<p>実習施設において実際の臨床を見学することで言語聴覚療法に対する認識を高めることを目的とする。リハビリテーションの専門職につくための自覚を持つとともに、言語聴覚療法及び摂食嚥下療法の活動見学を通し、挨拶、時間の順守、態度を含めた社会人としての在り方、対象者の尊厳の理解、対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。</p> <p>また、臨床現場における言語聴覚士の役割と位置づけ、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。実習後に個人面談を行い、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察し、実習を総括する。</p>									
到達目標	言語聴覚療法について具体的にイメージできる。社会人としての在り方を理解し、実行できる。言語聴覚士に求められる基本的資質を理解する。									
学修者への期待等	言語聴覚士の臨床活動の見学を通して、自身の足りない点を含め、自らと向き合ってもらいたい。そのうえで、次年度の学修における努力目標を明確にできることを期待する。									
授業計画										
<p>1. 実習期間 1単位 45時間 実習時期 2月1週～2月2週の間で1週</p> <p>2. 実習の目的 実習施設において実際の臨床を見学することで、言語聴覚療法に対する認識を高める。また、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。</p> <p>3. 実習の目標（ねらい） 1) リハビリテーションの専門職に就くための自覚を持つ。 2) 他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。 3) 対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。</p> <p>4. 実習計画 オリエンテーション 実習前：3時間 実習後：2時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 5) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。</p>										
教科書	適宜紹介する。									
参考文献	適宜紹介する。									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

本科目の担当者はすべて5年以上の経験を有する言語聴覚士である。その指導のもと言語聴覚療法の実際を学ぶ。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLT-02				
		●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 鈴木 将太 木村有希 江畑 綾		実習先評価： 知識・人物・適正	72 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	3 単位	評価の方法	学内評価： 準備・報告書等	28 %
				授業形態	実習	授業時間数	135 時間			
						授業回数	- 回			
授業の概要	<p>学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能と考察する能力を向上させることを目的とする。対象者の全体像把握のため、臨床実習指導者の指導のもと検査を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるよう学修する。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から今後の課題と目標を考察する。さらには実習後の症例報告書の作成と報告会を通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。</p>									
到達目標	適切な検査法を選択・実施し、総合的な評価ができる。さらに評価内容をまとめ、的確に説明することができる。									
学修者への期待等	自らの足りないところを明確にし、次の努力目標としてほしい。									
授業計画										
<p>1. 実習期間 1単位 45時間 実習時期 1月4週～2月3週の間で3週</p> <p>2. 実習の目的 学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能及び考察能力を向上させる。</p> <p>3. 実習の目標（ねらい） 1) 治療プログラムの立案ができる。 2) 治療目標の設定ができる。 3) 言語病理学的診断を行い、問題点を抽出できる。</p> <p>4. 実習計画 オリエンテーション 実習前：8 時間 実習後：7時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査を選択肢実施する。 5) 長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 7) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。</p>										
教科書	特に指定しない。									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

本科目の担当者はすべて5年以上の経験を有する言語聴覚士である。その指導のもと言語聴覚療法の実際を学ぶ。

言語聴覚学科 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
聴覚系の構造・機能・病態	1	渡邊 弘人	言語聴覚士。病院・高齢者施設における臨床の実務経験を有する。
言語聴覚障害学の基礎	1	渡邊 弘人	言語聴覚士。病院・高齢者施設における臨床の実務経験を有する。
		木村 有希	言語聴覚士。成人・小児の臨床の実務経験を有する。
失語症概論	1	鈴木 将太	言語聴覚士。病院において、失語症・高次脳機能障害の臨床の実務経験を有する。
高次脳機能障害概論	1	鈴木 将太	言語聴覚士。病院において、失語症・高次脳機能障害の臨床の実務経験を有する。
言語発達障害 I	1	木村 有希	言語聴覚士。小児に関連する施設における臨床の実務経験を有する。
運動障害性構音障害 I	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士。運動障害性構音障害に関する臨床の実務経験を有する。
摂食嚥下障害 I	1	江畑 綾	言語聴覚士。嚥下障害の臨床の実務経験を有する。
成人・小児の聴覚障害	1	渡邊 弘人	言語聴覚士。病院・施設における臨床の実務経験を有する。
聴力検査	1	渡邊 弘人	言語聴覚士。病院・施設における臨床の実務経験を有する。
臨床実習 I (見学実習)	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		渡邊 弘人	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		鈴木 将太	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		木村 有希	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		江畑 綾	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
言語発達障害 II	2	木村 有希	言語聴覚士。小児に関連する施設における臨床の実務経験を有する。
運動障害性構音障害 II	2	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士。運動障害性構音障害に関する臨床の実務経験を有する。
摂食嚥下障害 II	2	江畑 綾	言語聴覚士。嚥下障害の臨床の実務経験を有する。
臨床実習 II (評価実習)	3	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		渡邊 弘人	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		鈴木 将太	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		木村 有希	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		江畑 綾	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
	19	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	93	設置基準上の標準単位数	